英語アンケートについての小レポート

実松　克義

実施アンケートの種類

本学における英語教育の抜本的な改善を願って英語教育研究室では新カリキュラムがスタートするかなり前からパイロット・コースなどでアンケート評価を実施している。そして1997年4月に全カリが始まるとそれは「新英語カリキュラム」の運営にとって欠かせないカリキュラム上の有機的な部分となった。学生を対象にこれまで毎学期継続して実施してきたアンケートは次の2種類である。「英語カリキュラムに関するアンケート」及び「授業評価のアンケート」。これに加えて今年度より新しい試みとして「教員によるカリキュラム評価アンケート」を始めた。これらのアンケートは英語教育セミナーや担当者会とともに研究室FD活動の核心をなすものであり，それぞれが明確な意義と目的を持っている。この小レポートでは主にその中でもとりわけ重要な，最初の「英語カリキュラムに関するアンケート」について詳述したいと思う。

1．「英語カリキュラムに関するアンケート」

「英語カリキュラムに関するアンケート」の意義と目的は極めてはっきりしている。それは新カリキュラムについての学生のフィードバックをうるためである。初めから完全無欠のカリキュラムなどありえない。いかに新しい理念と高い理想を持ったカリキュラムであろうと，それが十全に機能するためにはやはり実施した上で改善を重ねてゆくほかはない。また以前にははっきりと見えていなかった課題や問題点，あるいは学生のニーズが時間とともに明確化するということもありえよう。こうした視点から「英語カリキュラムに関するアンケート」は「新英語カリキュラム」の実効性の確認とさらなる改善を目的としたものである。

実施方法

さてそれでは「英語カリキュラムに関するアンケート」は具体的にはどうして実施されているのか。このアンケートは各学期の終りに実施される。極めて重要な目的を持つものなので必修カリキュラムを履修する全学生を対

象に実施する。英語は2コース制をとっているので，その内容の違いを反映して2つのヴァージョンが存在する。言語文化コース（LCC）・カリキュラムについてのアンケート，及びコミュニカティブ・コース（COC）・カリキュラムについてのアンケートである。これらは学生が一堂に会する最後の機会であるR&L統一試験の時に（LCCの場合），もしくはR&Wのクラスの最後の授業日に（COCの場合）実施する。

設問上の重点項目

「英語カリキュラムに関するアンケート」は最初に実施されて以来何回か改善を重ねてきた。知りたいこと，確認したいことに関して的確なフィードバックがえられる設問を考えるのは非常に難しく，また同時に学生に負担の大きいアンケートにすることもできない。その結果現在のアンケートは以前のものに比べてよりスリム化されたものになった。アンケートは言語文化コース版が28設問，コミュニカティブ・コース版が20設問となっている。前者の設問数が多いのはカリキュラムのヴァラェティーが大きいためである。アンケートの最重点項目となるとやはり希望するコースに入れたかどうかということ，そして現在の英語カリキュラムについての満足度の2つである。そして実際に履修してみて英語に対する自信，異文化理解などが高まったかどうか，またそれぞれのクラスにおいて実際にターゲット・スキルの実力がついたかどうかがそれに類する部類に入る。そのほか使用教材についての設問は極めて貴重なフィードバックとなる。

設問及び評価の仕方

設問及び評価の仕方はアンケート調査でもっとも普通にみられるものである。設問の仕方は仮定事実，見解あるいは提題に対して学生がYES/NOで評価するという形をとる。ただしこの評価は5段階方式で行なう。具体的にはa. 強く同意する，b. 同意する，c. 同意も反対もしない，d. 反対する，e. 強く反対する，となる。たとえば項目IA 2「現在の英語カリキュラムに満足している」に関して学生は上記の5つのカテゴリーからもっとも適切なものを選んで，マークシートにしるす。ただこの種の設問方式は長所とともに欠点もある。最大の長所は項目についての評価が数量化されているので，集計して統計処理が可能なことである。これは共通基準によって総合評価を下したり，また以前の結果と比較するためにも必要なことである。しかし最大の欠点はやはり単純なYES/NO評価では学生の具体的な批判やサゼッションが聞けないということだ。そのためアンケートにはIマークシート記入項目とともにII自由記述欄があり，その欠点を補っている。

集計，分析及び活用方法

アンケートによってえられたデータは集計し，統計をとった後，分析される。また自由記述欄のコメントもカテゴリー別にまとめられる。その結果は研究室会議で発表される。また言語構想委員会などでも紹介される。アンケート結果の活用方法についてはさしあたって次の２つが考えられる。まずアンケート結果によりカリキュラムのどの部分が高い評価をえ，またどの部分に問題があるかが明確になる。したがって問題のある部分を改善する資とするのがこのアンケート結果のもっとも重要な活用法である。

これにはすぐにでも活用できることと，より長期的にみるべき問題とがある。前者のもっともよい例は教材の適正さについてのフィードバックである。これは重要なものであり，翌年度の教材を決定する際のもっとも大きな判断材料となる。反面カリキュラム自体についての評価結果は後者に属しよう。これはある程度長期にわたってデータを蓄積する必要があり，それに基づいて定期的にカリキュラム自体を見なおし，より学生のニーズに合ったものに改変してゆく必要があろう。

第２の活用法として全カリ英語カリキュラムの理念的評価の確認という目的がある。全カリ英語カリキュラムは本学の新しい英語教育のありかたとして構想，実施された。学生アンケートの結果は新カリキュラムの妥当性を確認し，大学内での評価をうるための具体的なデータを提供するものだ。これはまたさらには大学の対外的なパブリシティーという意味でも重要であろう。

アンケート結果

ではアンケートの実施結果は具体的にはどうだったのか。ここでは例として1998年度実施の「英語カリキュラムに関するアンケート」の結果（前期，後期の平均）をまとめておこう。まずいえることは，カリキュラムに対する総合的評価という点で，肯定的意見が否定的意見を大幅に上回っていることである。「現行カリキュラムに関する満足度」は平均で43%，逆に「不満足度」は19%であった。これによりカリキュラムがかなり高い評価をえていることがわかる。ただここでLCCカリキュラムとCOCカリキュラムの間にある差異は見過ごせない。「満足度」：LCCが37%，COCが50%。「不満足度」：LCCが26%，COCが12%。この原因は何か。いちがいにカリキュラム上の問題ともいえないかもしれない。なぜなら「英語に対する自信がついたかどうか」の点では，両者の間の相違はそれほどでもなかったからだ。（COC25%，LCC21%）

これに関して「希望するコースに入れた」はCOCが92.4%であったのに比べてLCCは64.8%に留まった。逆に「クラスの人数を減らして欲しい」に関してはLCCは33.1%，またCOCは29.2%であった。この辺に原因があるのかもしれない。そのほかの重要な点としては「同一教員が週２回授業を

する」ことに高い評価が与えられたことがあげられる。56%（LCC49.95%，COC62.1%）これは言語カリキュラムにおけるペアクラスの考えが正しかったことを意味する。また全体としてスキルを目標としたカリキュラムよりは内容重視のカリキュラムのほうが高い評価をえた。これも示唆に富む結果である。最後に各コース，クラスの具体的な到達目標について，「上達した」と学生が感じているかどうかは，次のとおりである。

コース，クラス及びその目標：		「上達した」と答えた学生：
LCC：		
R&L	リスニング	34%
	リーディング	27%
CCC	異文化理解	51%
ETV	文化背景知識	41%
PRC	読書の習慣	35%
COC：		
INT（IWE）		
	コミュニケーション	39%
LIS	リスニング	34%
R&W	ライティング	51%
	リーディング	31%

他の実施アンケート

2．授業評価のアンケート

英語教育研究室では「英語カリキュラムに関するアンケート」以外にも2つのアンケートを実施している。

1つは「授業評価のアンケート」である。これはカリキュラム全体というよりは個別のクラス，授業に対する評価である。したがってここでもっとも重要になるのは授業の仕方，教授法，クラス運営など，より実践的な面である。アンケートは2種類の設問から成り立っている。学生によるクラス評価に関する設問と学生自身の授業への関わり方についての設問とに分かれる。前者の項目として「クラスの満足度」，「実力がついたかどうか」，「充実した授業であったかどうか」などがある。また後者の項目に「より英語が好きになったかどうか」，「熱心に勉強したかどうか」などがある。こうした2種類の設問項目を設けたのは学生の授業評価をより正確に，実効性のあるものにするのが目的である。アンケートにはまた自由記述欄があり，学生はそこに具体的なコメントを書くことができる。そしてこのアンケートの重要なポイントは無記名で実施されるということだ。これは学生が何の制約もなく意見を述べることを保証するためである。

このアンケートは各学期の終りに「英語カリキュラムに関するアンケート」と同時に実施される。その結果は集計され，全体の統計をとった後各担当者に戻される。これは基本的には各担当者が自らの授業の仕方を改善するための資とするのが目的である。

3．教員によるカリキュラム評価のアンケート

もう1つは今年度から新しく始めた「教員によるカリキュラム評価アンケート」である。これは学生によるカリキュラム評価を教員の立場から確認

するものとして重要である。またアンケート対象者がカリキュラム内容を深く理解できるので，より具体的でプロフェッショナルなコメントがえられることが期待される。そのためアンケートは4項目からなる自由記述方式をとり，クラスのカテゴリー別に回答される。（例：言語文化コース（LCC），異文化間コミュニケーション（CCC））その4項目とは，「クラスの目的の明確さ」，「使用テキストの適切さ」，「現カリキュラムの中で教師がクリエイティビティーを発揮できるかどうか」，「改善すべき点」である。このアンケート結果はすでに次年度のテキストを決定する際の重要な基礎資料として活用されている。

今後の課題

カリキュラム評価のアンケート実施はまず現行カリキュラムのさまざまな問題点をチェックし，その修正，改善をするためにある。こうしたことを実現するための情報収集手段としてアンケートは実効性のある唯一の手段といえるかもしれない。とりわけ学生アンケートの結果は授業を受ける立場にある学生の反応を直接知るという点で欠かせないものだ。そして現行カリキュラムの評価という点では現在のアンケートはかなりの程度に満足のゆくものだろう。

だがよい言語教育のあるべき姿とはやはり現状に満足することなく，より大きな目標に向かってのヴィジョンを持ち続けることにあるだろう。その意味でアンケート実施にはより遠い将来のカリキュラム発展を見越してのデータ蓄積という目的もまたあるのである。これはいいかえれば英語研究室がこれからどういうカリキュラムを作り上げてゆきたいかということにつきる。またその目的いかんでは，カリキュラム内容の評価に関する一般的な設問と同時に，とくにフォーカスしたい特別項目に関する設問を挿入することも考えられよう。

いっぽう技術的な面に関しては，設問上の工夫をさらに続ける必要がある。何よりも設問を精選すること，またYES/NO回答でも学生の意見が的確に反映できるような問いかけにすることが重要である。さらにはこうしたマークシート項目の結果を効果的に補完するため，逆に自由記述欄の学生の意見を数量化し，統計的に分析する必要も出てこよう。

最後により根本的な問題について述べておこう。アンケートは実施するのは比較的たやすいが，その結果を集計して分析し，さらにそれを実際のカリキュラム改善に生かすとなると多大の時間とエネルギーが必要となる。片手間ではできないのである。この辺の厳しさを踏まえて，より効果的で，実行性のあるアンケート実施システムがこれから確立されてゆかねばならないだろう。

（さねまつ　かつよし　本学社会学部助教授
全カリ運営センター英語教育研究室）

英語カリキュラムに関するアンケート（コミュニカティブ・コース）

このアンケートは，英語カリキュラムの授業内容の改善のために実施するものですのでご協力をお願いします。最初に，マークシート用紙に学生番号を記入，マークしてください。これは統計整理上必要なもので，成績評価とは何ら関係はありません。

評価の基準（項目１以外の全てに適用）

a　強く同意する
b　同意する
c　同意も反対もしない
d　反対する
e　強く反対する

Ⅰ　マークシート記入項目

A　英語カリキュラム全般について

1　希望しているコースに入れた。（はい―a，いいえ―b）
2　現在の英語カリキュラムに満足している。
3　授業回数（週４回）をもっと増やしてほしい。
4　授業回数（週４回）をもっと減らしてほしい。
5　同じ教員が週２回同一科目の授業を担当することはよい。
6　英語の必修単位を８単位以上に増やしてほしい。
7　もっとクラスの人数を減らしてほしい。
8　英語に対する自信がついた。
9　異文化理解が深まった。

B　各クラスを履修してのコメント

インターアクティブ・ワールド・イングリッシュを履修して

10　リスニングが上達した。
11　スピーキングが上達した。
12　教材は興味深かった。
13　教材は難しかった。

リスニングを履修して

14　リスニングが上達した。
15　教材は興味深かった。
16　教材は難しかった。

リーディング・アンド・ライティングを履修して

17　リーディングが上達した。
18　ライティングが上達した。
19　教材は興味深かった。
20　教材は難しかった。

Ⅱ　自由記述欄　（マークシート裏面）

以上・

英語カリキュラムに関するアンケート（言語文化コース）

このアンケートは，英語カリキュラムの授業内容の改善のために実施するものですので
ご協力をお願いします。最初に，マークシート用紙に学生番号を記入，マークしてください。
これは統計整理上必要なもので，成績評価とは何ら関係はありません。

評価の基準（項目１以外の全てに適用）
a　強く同意する　b　同意する　c　同意も反対もしない　d　反対する
e　強く反対する

Ⅰ　マークシート記入項目

A　英語カリキュラム全般について

1　希望しているコースに入れた。（はい―a，いいえ―b）
2　現在の英語カリキュラムに満足している。
3　授業回数（週４回）をもっと増やしてほしい。
4　授業回数（週４回）をもっと減らしてほしい。
5　同じ教員が週２回同一科目の授業を担当することはよい。
6　英語の必修単位を８単位以上に増やしてほしい。
7　もっとクラスの人数を減らしてほしい。
8　英語に対する自信がついた。
9　異文化理解が深まった。

B　各クラスを履修してのコメント

リーディング・アンド・リスニングを履修して
10　リスニングが上達した。
11　リーディングが上達した。
12　教材は興味深かった。
13　教材は難しかった。

異文化間コミュニケーションを履修して

14　リスニングが上達した。
15　スピーキングが上達した。
16　リーディングが上達した。
17　ライティングが上達した。
18　教材は興味深かった。
19　教材は難しかった。
20　異文化理解が深まった。

プレジャー・リーディングを履修して

21　リーディング力が上達した。（経・社・法・観・コミ福学部の人のみ回答して下さい。）
22　語彙力がついた。（経・社・法・観・コミ福学部の人のみ回答して下さい。）
23　英語を読むのがより楽しくなった。（経・社・法・観・コミ福学部の人のみ回答して下さい。）
24　教材は興味深かった。（経・社・法・観・コミ福学部の人のみ回答して下さい。）
25　教材は難しかった。（経・社・法・観・コミ福学部の人のみ回答して下さい。）

プラクティカラル・ライティングを履修して

26　ライティング力が上達した。（文・理学部の人のみ回答して下さい。）
27　教材は興味深かった。（文・理学部の人のみ回答して下さい。）
28　教材は難しかった。（文・理学部の人のみ回答して下さい。）

Ⅱ　自由記述欄（マークシート裏面）

以上

授業評価のアンケート

このアンケートは，英語カリキュラムの授業内容の改善の為に実施するものですのでご協力をお願いします。

学生番号および氏名を記入する必要はありません。（また，これは成績評価とは何ら関係はありません。

評価の基準

a　強く同意する
b　同意する
c　同意も反対もしない
d　反対する
e　強く反対する

Ⅰ　マークシート記入項目

A　このクラスについて

1　このクラスに満足している。
2　初めにクラスの目標が明らかにされ，それに沿った授業運営がなされた。
3　このクラスを履修して英語力がついた。
4　説明が分かりやすかった。
5　よく準備された，充実した授業であった。
6　学生のやる気を引き出すような授業だった。
7　担当教員の休講が少なかった。（はい－a，いいえ－b）

B　自分自身について

8　以前よりも英語が好きになった。
9　もっと英語を勉強してみたくなった。
10　授業中熱心に勉強した。
11　よく授業の予習あるいは復習をした。
12　授業によく出席した。（はい－a，いいえ－b）

Ⅱ　自由記述欄

（マークシート裏面）

以上

担当教員による立教大学英語カリキュラム評価アンケート

教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

コース（例：COC）　：＿＿＿＿＿＿

クラス（例：IWE２）：＿＿＿＿＿＿

学部（例：法学部）　：＿＿＿＿＿＿

ご意見：

1．このクラスの目的は明確でしょうか。また教員と学生が実際の授業で何をする必要があるのかは明確でしょうか。

2．このクラスで使用されるテキスト（教材）は学生にとって適切でしょうか。（もしそうでないとすれば何が問題なのかを具体的にお書き下さい。）

3．あなたはこのクラスを現在の使用教材を使って教えていて十分に教師としての自分のクリエイティビティーを発揮することが出来ますか。（もしそうでないのなら具体的な問題を指摘してください。）

4．このクラスの内容をさらによくするためにはどうしたらよいと思われますか。（具体的にお書き下さい。）